



ユーザーを参加させるテクノロジーが重要

今月の特集では、「Web 2.0」に着目した。Web 2.0の要求仕様を見ていくと、ある1つの要素が大きな影響を与えていることに気付く。Web 2.0が期待するキーワードのうち、「会話」、「ユーザー体験」、「信頼」、「集団的知性」、「P2P」などは、いずれもユーザーが参加することによって可能になるものだ。

本来的に双方向性を持っているインターネットなのだから、ユーザーが何らかの形で参加するのは自然の成り行きではある。だがこれまでは、コンテンツを作り出す能力が企業に集中していたのと、ISPやポータルを中核にネットコンテンツが育ってきた背景から、一方向での受信(下り)が重視されてきたと思う。しかしやっと、ブロードバンド環境が整い、ブログも登場し、これからユーザー参加型コンテンツのさらなる増進が期待される。さらにいえば、インターネットのコミュニティが創り出す「場」が、コンテンツの生成プロセスを担っていくことだろう。

ところで、昨今、マスコミを賑わしている日本の有力ネット企業の戦略に不安を覚えることがある。米国ではテクノロジーを重視しており、ソフトウェア開発への投資が再度活性化している。一方、日本では、球団やテレビ局など既存企業への投資が先行しているように見える。インターネットの進展はまだ止まっておらず、まさに今、新しい領域へ進化しようとしているように思える。この革新の原動力はあくまで技術だったはずである。技術のアドバンテージがなければ、長続きする発展はむずかしいだろう。

20年くらい前、日本でも多くのソフトウェアハウスが起業し、一世を風靡したことがあった。しかし、今はマイクロソフトがほとんどのシェアを占め、「ソフトウェアハウス」という言葉を聞かなくなってしまった。ネットで同じ道をたどらないようにしたいものだ。

井芹昌信 <iseri@impress.co.jp>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp